

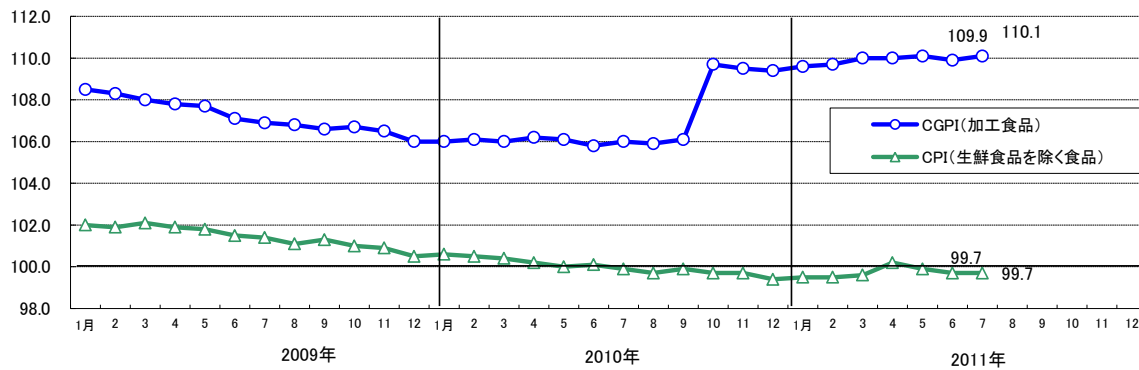
加工食品の物価及び生産・販売動向

1 加工食品の企業物価及び消費者物価の動向

消費者物価は低下から横ばい

加工食品の企業物価指数は、2010年10月から長期下落傾向が上昇に転じ、2011年7月は110.1で高水準を維持している。一方、消費者物価指数（生鮮食品を除く食品）は99.7で、長期下落傾向にあったが、歯止めがかかりつつある。

図1 加工食品の企業物価指数、消費者物価指数



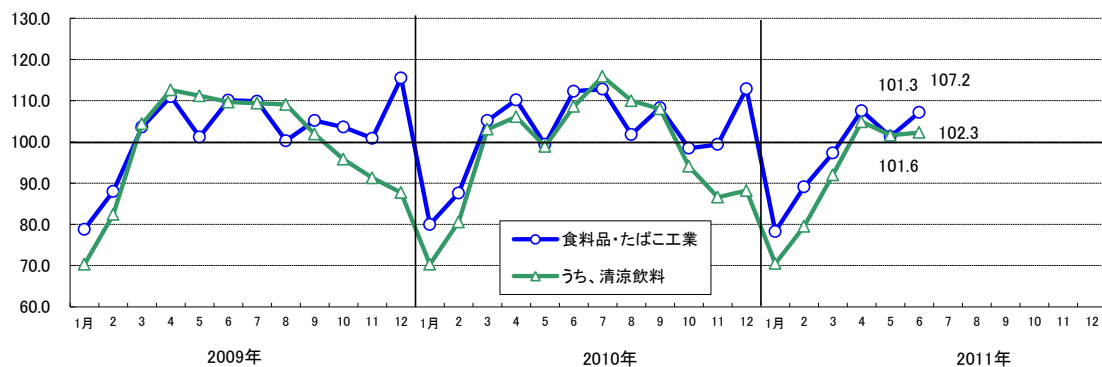
資料: 日本銀行「企業物価指数」、総務省「消費者物価指数」

2 食品製造業の生産動向

食料品・たばこは対前年比で減少、うち、清涼飲料は減少

6月の食料品・たばこ工業の生産指数は、107.2で対前年同月比▲4.5%とやや減少した。うち、清涼飲料は102.3で対前年同月比▲5.8%とやや減少した。震災等の影響等により3月と4月は減少し、5月は増加したものの、6月は再び減少に転じた。

図2 食料品・たばこ工業、清涼飲料の鉱工業生産指数の推移



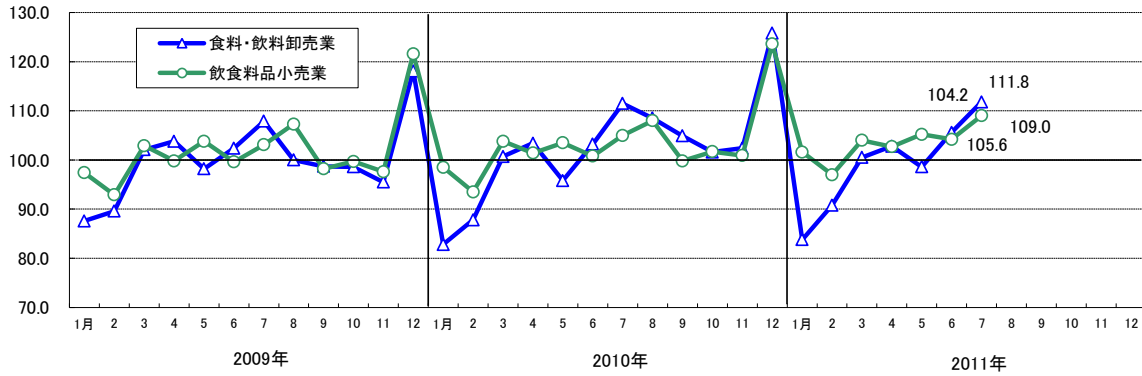
資料: 経済産業省「鉱工業生産指数」

3 卸売業と小売業の販売動向

卸売業の販売額は前年並み、小売業の販売額はやや増加

2011年7月の食料・飲料卸売業の販売額指数は111.8で対前年同月比0.3%と前年並みになった。また、飲食料品小売業の販売額指数は109.0で3.8%とやや増加した。

図3 食料・飲料卸売業と飲食料品小売業の販売動向



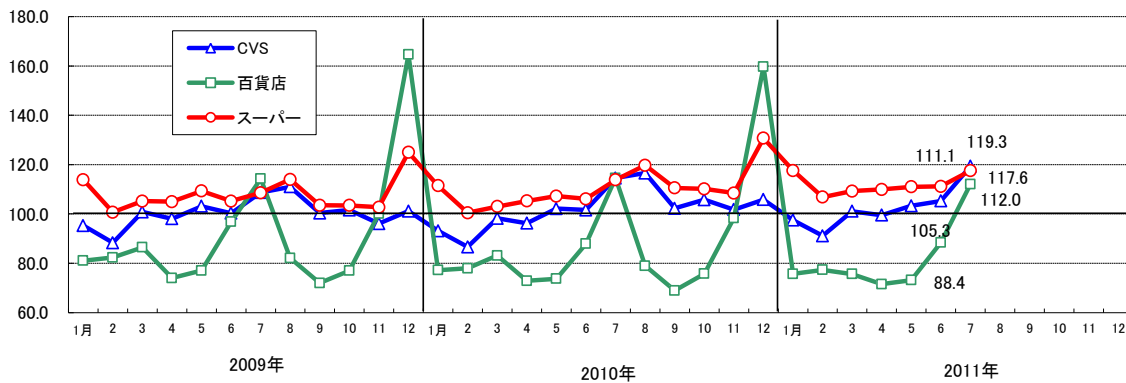
資料:経済産業省「商業販売統計」

4 スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の加工食品の販売動向

CVS、スーパーは増加、百貨店は減少

2011年7月のコンビニエンスストア、百貨店、スーパーにおける加工食品の販売動向についてみると、コンビニエンスストアは119.3で対前年同月比4.2%とやや増加した。また、スーパーは117.6で同3.3%とやや増加したもの、百貨店は112.0で同▲2.2%とわずかに減少した。百貨店は引き続き減少傾向で推移している。

図4 スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の加工食品の販売動向



資料:経済産業省「商業販売統計」

注:コンビニエンスストアはFFと加工食品の合計。百貨店及びスーパーは飲食料品。